

# 磐城時報

石城郡石城町 町田 弘成  
印刷所 加藤印刷所  
印刷部 加藤印刷所  
電話 一四七  
代金 一ヶ月金五拾圓  
廣告料 一行十四字 金五拾圓  
日刊 (日曜、祭日) 休刊

## 郡農會で考へた 農村不況の打開策

### より多くの収穫を計画

石城郡農會では農村不況の打開策として種々講究中であつたが、四百人程度の減を見てゐる模様、結局一定の土地から成る可く多であるが、これは炭礦の不況から収穫をあげるやうに努力する事が第一の策であるとして従つて結局に約一千名は減じてゐる。米畑に作つてゐた大麥は之を水名位増加した譯である、従つて田に二毛作として作り、畑には石城郡下各炭礦地帯の町村共相小麥を植える、かうすれば今日當減じてゐるのは明かである。田からは稲以外に作らなかつた水田も多量の収穫を見らるゝわけである、更に現在では稲苗のみを植えてゐた苗代にも普通水田と同様稲を作るのが當然で石城郡全般にすれば莫大な収入のある事も判明した、以上を實行するとすれば不足を生ずるの肥料で金肥を用ひれば容易でなから堆肥製造を奨励し成る可く肥料を自給自足で經營するやうになれば農村は現在の不況から脱し得る事當然であるとして郡農會青山、橋本、神谷村農事試験分場稲田技師等が石城郡全般に亘り大意となつて以上の宣傳獎勵をなす事になつた。

## 所調委員の 選舉會二十日

### 選舉會二十日

平務務署管内所得稅調査委員選舉は十六日執行されるが、三阪澤方面の投票は二十三日遅れるので選舉會は二十日午前九時に開く事となり十五日告示する事になつた。

## 四倉市場取引

四倉市場十三日取引は七百五十二貫、價格千三百八十四圓二十四錢、最高二圓十一錢最低一圓五十二錢、平均一圓八十四錢であつた。

## 陳情には耳も籍さぬ 強硬な大藏省

### 小名濱外數港代表者も 大失望で歸郷

石城郡小名濱町では商港修築案では、他く迄原案を支持して諸君の希望に副ふ様努力してゐるが、加へられんとするもので同様の運命にある土崎港外數港代表者と共に上京し關係省に既定豫算實行方の陳情をなした事昨報の如くであるが一行は十三日内務省に三邊土木局長、大藏省に藤井主計局長を訪ひ、港灣既定工事費の繰延縮減を加へられ工程の進捗豫期に反し地方産業の不振、人心の萎縮を招來するは遺憾であるから工事の既定計畫を實行されたいと陳情したるに對し内務省としては、

## 勿來の人口 四百名減

勿來町の現在人口は過般の國勢調査により大休七千七百八人前後と陳情したるに對し内務省としては、

## 陪審裁判に附される 錦村の老婆殺し事件

### 平支部の事件では最初

石城郡錦村に於て曾祖母を殺した助川秋雄(十七假名)に係る省より一千五百圓内外の助成金地内を進行中運轉臺に乗つての客の荷物ブレイキに落ちたので車は用水堀に轉落乗客九名が重傷を負つた。この事件は平支部の事件では最初陪審裁判に附された事既報の如く活劇を試むべく従前の如く放任のうちに好問村大字上好問字小館狗連を喜ばせてゐる、十五日か陪審裁判に附した事件は全部被で出動せられ、指揮監督する事地セキ(六七)の兩名は全治一週間の傷を負ふた。

## 自動車轉覆

### 乗客二名負傷

平町田町野崎自動車第八五二號を茨城縣多賀郡磯原町甲種運轉手原光男(二三)が運轉し十三日午前九時頃石城郡高久村字瀧前午九時頃石城郡高久村字瀧前

## 元巡査の家を襲つて 盜賊飛んだ災難

### 逮捕されて警察に突き出さる

石城郡内郷村大字御臺境元警察署巡査草野助三郎方に十四日午町大工町柴田元衛(二二)と實署三時頃盜賊が忍び入つたのを吐いたので十四日小検事局に送前、署に突き出した、平署で取調べた處、自稱山形縣西村山郡生れ建設當初の難關を突破して基幹本武(二六)と稱したが怪しい山野に獵犬を追い込み飛びたつた。

## あすから 獵解禁

政友では民政が三名しか立てぬなら此方も既定方針通り五名出せばよかつた、民政では俺の方も四名にするのだつた位には思つてゐるだらう。

## 石城でも珍らしい 無競争の選挙

政争の激烈な事は政黨政治の間柄として止むを得ないが恐らく縣下でも石城郡位に選挙に對して政黨が神経過敏にならざる事はあるまい、而もその選挙はいつも平凡に終つた事がない。波瀾あり曲折あり全く政黨屋は狂人の様になるのが例だから。

## 勿來の所得稅調査委員の選

で今回の所得稅調査委員の選挙も誰が出るの、やれ出ないの、出たつては困るのと仲間喧嘩まで始めた始末で誰もが

## 落磐で惨死

内郷村磐城炭礦第三斜坑坑夫山形縣北村山郡福岡町生れ水田作太郎(一九)は十一日午前三時五分落磐のため惨死した。

## 無競争では得票の多少が僅に 興味で、政黨屋さんも商賣に ならない、忠告振りも敢腕も 公長する譯に行かず全く口あ がらぬの体はお氣の毒様だが ザン見ろと大向ふの百パーセ ントの嘲笑の種を作つたとい

無競争では得票の多少が僅に興味で、政黨屋さんも商賣にならない、忠告振りも敢腕も公長する譯に行かず全く口あがらぬの体はお氣の毒様だがザン見ろと大向ふの百パーセントの嘲笑の種を作つたとい

## 無競争では得票の多少が僅に 興味で、政黨屋さんも商賣に ならない、忠告振りも敢腕も 公長する譯に行かず全く口あ がらぬの体はお氣の毒様だが ザン見ろと大向ふの百パーセ ントの嘲笑の種を作つたとい

無競争では得票の多少が僅に興味で、政黨屋さんも商賣にならない、忠告振りも敢腕も公長する譯に行かず全く口あがらぬの体はお氣の毒様だがザン見ろと大向ふの百パーセントの嘲笑の種を作つたとい

### 汽車を止む

#### 危険な六十翁

十三日午後零時二分平驛發湯本行き第二四八列車が、湯本間二百二十軒五百メートルの地点を進行中線路外を湯本に向つて歩行中の老人が突然線路を横切らんとして上り線路に入つたを機に、關手が發見急停車して事なきを得たが右老人は湯本町上河原辰の口五五北野専作(六四)といふものである。

### 國調結果五分減

石城郡四倉町に於ける第二回國勢調査昭和五年十月一日に依る現在数は八口七千一百九十七人にして戸数は一千五百十五戸であるが、戸割別にして一戸四人五分である、尚ほ第一回の國勢調査に依ると四倉町の人口は約五分減である。

### 水産生修學旅行

石城郡四倉町水産商業補習學校の第三學年生は來る十月廿三日より三日間二十三、四、五日に渡り日光及び東京方面に向ひ修學旅行を行ふ筈、尚ほ同校一、二學年は小名濱方面に修學旅行をなす筈である。

### 相馬支局通信

#### 老爺の縊死

相馬郡原町字西原農鈴木清助(六八)は十三日午前十時頃家人の野良仕事に出で不在中天井上に昇り梁りに細紐を以て縊死した、仕事から歸へつた家族が発見驚き手當も効なく原町署の検死を受け、原因は豫て腦を病みゐるためこれを苦にしたものらしい。

### 福浦校運動會

秋晴 郡醫師總會は十二日原町驛前花月館内に開催、藥價値下、診療料其他二三につき協議をなし後懇親會を催した。

### 農産物品評會

縣立相馬農務學校々友會主催の農産物品評會は十一月十五、六の兩日同校内に開催する。

### 石神兩校運動會

相馬郡石神村第一、第二尋常小學校聯合運動會は十三日第二校庭に舉行した、一千有余名の児童が惠まれた天候に喜々として競技に熱中する様は場外に溢れ、多數の觀覽者を喜ばした百種競技も午後三時半大盛會裡に種々終りを告げた。

### 金房村々長再選

既報の如く相馬郡金房村長は満期の際今回村會を招集し村長選挙會を開きたるに満學一致現村長草野利八氏を再選した。

### 相馬郡醫師會

相馬郡醫師會は十二日原町驛前花月館内に開催、藥價値下、診療料其他二三につき協議をなし後懇親會を催した。

## 温灸

## 灸

胃腸病 肺病、肥り度い人婦人病、冷え症、慢性諸病に特効  
醫學博士廿名推獎  
特許 ラヂウム温灸器  
説明書進呈 定額大 金十三圓、特小 金拾圓、價一割金拾圓

特約代理 福島縣平町五ノ廿八 志賀齒科醫院  
治療部 福島縣平町白銀町九 關口悦子

## 御探用

(目印)

大谷時計病院 デアリマス 電話十九番

姓名、生年月日、原籍地、寄留地、特長、大谷時計病院

專門眼科醫師擔任 無料検査 信用アリ正確味萬点ノ時計 御客様本位の眼鏡部 常盤屋時計店

醬油と味の 山崎合名會社 電話一營業部専用一〇番 振替東京一九七五番

秋とサロンの サロンの黒ビール 美味にして 芳醇の香高き

レコード破りの石炭大特賣 正味十貫匁一俵金卅錢也 阿部石炭商店

昭和タクシー 此際御得意様本位に 貸切料金の値下斷行 何卒御用命を

耳鼻咽喉科 藤沼醫院 電話平町五〇七番